

NPO 法人 純正律音楽研究会会報 ～2019年5月発行～

# ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 Tel:03-5317-0291  
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 2019年5月27日  
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会  
編集 相坂政夫

## No.60



木々の緑が色濃くなる季節になりましたが、会員の皆様如何お過ごしでしょうか。

先日、3月30日の「癒しの音楽コンサート」は大盛況のうちに無事終了いたしました。多くの方々にご来場いただき、誠にありがとうございました。

次回のコンサートは、9月21日土曜日、午後2時開演「癒しの音楽コンサート」、市川の山崎パンクリエーションセンター「LLCホール」で開催いたします。今回は、ヴァイオリン、ハープ、箏、とゲストに尺八の編成で演奏します。

ゲストの尺八は当会正会員、齋藤昌男様のご紹介で、アメリカ人の演奏家、Christopher Yohmei Blasdel氏。彼は芸大大学院卒で合気道4段。奥様の木村ミカさんは芸大出のソプラノ歌手です。多くの方々のご来場をお待ち申し上げます。

純正律音楽は、人の心を癒します。  
今後とも純正律音楽研究会をよろしくお願い申し上げます。

## 子供の成長と教育

洗足音楽大学教授・ヴァイオリニスト  
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表  
水野佐知香

5月なのに30度超え！夏はどのようになってしまうのでしょうか。  
春がほとんどなく、あっという間に「夏」このままいったら50度近くになり焦げそうですね。

皆さま、暑さ負けされていませんか？

この暑さにも負けずに、生徒さんたち、ヴァイオリンのお稽古に頑張っているっしょいます。

ヴァイオリンとかピアノという楽器は特殊な教育の世界なのでしょうか？  
特にヴァイオリンは、小さいときは、先生のレッスンを親が記憶をして、次のレッスンまでに親が子供に家でレッスンをして(教えて)過ごす。ことが前提になっています。

最近では、お勉強なども家で家族が教えている！という話も聞きます。  
私も小さい頃、母がレッスンで教えてもらったことを、一生懸命覚えて、私に口三味線で、毎日レッスンをしてくれたおかげで今日があります。

確かに、幼少の頃の親の関わりで、小さい頃の成長は違います。しかし難しい

のがこの先です。いつ、親離れ子離れをするのか？

私は才能教育で育ちましたので、才能教育研究会の、鈴木鎮一先生のお言葉「子供は育つ、育て方ひとつ」「子は環境の子」など、私の母は、鈴木先生の言葉を信じて私を育ててくれました。

とても大切なのはその子供の個性を見抜くことが大切なのではないかと、最近思います。幼少期でもその子供のことを考え、怒るべきか、褒めるべきか、何を言うかを、まわりは考えて接して欲しいものです。そして、思春期が来て子供をいかに自立させるか！とても大事な問題です。親はいつまでもいるわけでもなく...子供たちを育てた成果は、親としてはすぐに欲しい。

コンクールに出たら賞が欲しい！特に、親は、本人が演奏するというより、親自身が弾いているつもりになり、自分の分身が弾いているつもりになっている親御さんたちもいます。

私が親御さん達にお願いしたいのは、結果を急がず、答えを自分で考えられる人になって欲しい！ということです。失敗も成功の元！回り道することも大切です。

今の時代、スマートフォンなどが普及して、なんでもすぐわかる、親たちも時間がないので、すぐ答えを教えるし、結果も求めてしまう。でも、私は答えは1つではないと思うのです。色々あることも子供たちに伝えたいのです。その時に結果が出なくても、先につなげる！努力したことに価値がある！と思います。

昔は辞書を探し、自分たちで考えて、答えを探っていました。遊びなども工夫をしていたように思います。

子供が親の言う通りの大人になっていたら気持ち悪くないでしょうか？  
子供が大人になり自立して自分で考え動き出したとき、親御さんはじめ、まわりが皆んなで子育てを応援する形が取れると良いなあと思うこの頃です。  
最近七田式教育を開発されている方の本を読みました。

親の心得です。

子供の学びたい気持ち、好奇心の芽を伸ばしていくには、子供の年齢や今のレベルにあった働きかけをしていくことです。

親自身が子供に必要なだと思えることを見極め、選択して与えていきましょう。

さて、最近では、お魚を自宅でおろす人も減っているようですが、我が家では、一匹 100 円の大きな鰯を主人が買ってきました。先日の朝の TV でもやっていましたが、身は、お刺身、たたき、酢の物にして、とても楽しんで堪能しましたアラはスープ(何回も味を変えて楽しみました。)

食べ物も何でも手に入る、飽食の時代、食べ物にも感謝して過ごせるようになりたいものです。

音楽も一緒！

いつでもどこでも聴ける！見られる！まわりに惑わされない...

### ムッシュ黒木の純正律講座 第 59 時限目

#### 平均律普及の思想的背景について(48)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

引き続き、カトリックとプロテスタントの政治への関わり方の違いについて述べていきたい。カトリックは政治権力と結びつくことによって発展してきた。対して、プロテスタントはそのような権力と一体化したカトリックに抵抗(=プロテスト)し独立した勢力であり、それ故、何らかの要求を掲げて社会運動を行うことは盛んだが、政治権力に組み込まれることは良しとしない。

キリスト教徒は政治に長けていると言える。例えば、『女を修理する男』という映画がある。アフリカのコンゴにおいてレイプ被害者の救済に尽力したことにより、2018 年ノーベル平和賞を授与された婦人科医デニ・ムクウェゲ氏を追ったドキュメンタリー映画である。コンゴのある地域では、タンタルなどの鉱山開発のために武装勢力が性暴力という手段によって厳しい地上げを行っていた。暴力によって女たちの心を折りその土地から追い払ってしまえば、近隣の村々において形成された地域社会を崩壊させることができ、いとも簡単に地上げが達成できるというわけだ。しかも、反政府勢力だけではなく、正規軍もこのような凶行に加わっていたというのだから始末が悪い。それに対して立ち上がったのが、ムクウェゲ医師だ。氏は暗殺の危険に晒されながらも、被害女

性のレイプによって傷ついた身体を治し心のケアにも尽力するばかりでなく、地域住民の先頭に立ち法の名の下による犯罪者の処罰と権力による治安の維持を政府や国際組織に訴えたのだ。

ムクウェゲ氏の信念に基づいたこのような行動は、プロテスタントの牧師であった父親の影響が大きいであろう。キリスト教徒は、日曜ごとに教会に集まり集会を開く。氏はそのような教会という場を使って、レイプされたことにより村を追い出された被害女性を集め療養施設を開くと同時に女性の教育機関を立ち上げたのである。教会が人の多く集まる施設であるすれば、そこには自然と人の輪ができるということなり、そこで人々と共に社会運動へと起こしていくことができる。キリスト教は教義だけではなく、そういう社会的実践のノウハウを持っているところが圧倒的な強みとなっていると言えよう。

このようにプロテスタントは政治運動を展開していくが、彼らは決して中央政府に歩み寄ることはない。アメリカなどのプロテスタントが多数派を占める国家における「信教の自由」とはこのような文脈で理解すべきなのだ。つまり、政府が特定の宗教に肩入れしてはいけなく、国民にそれを押し付けてもいけない。市民はそれぞれがどのような宗教でも選択することが出来るし、自分の好む宗派で自由に活動することができる。そして仲間と共に運動を展開し、自分たちの政治的主張を中央政府に要求するのだ。この場合、自分たちの活動の幅が広がれば広いほど都合が良いので、政府は小さいほど良いという発想が出てくることになる。大統領や政治家であっても、信教の自由は保証されるので、彼らが公の場で自分の信仰を述べることも当然許される。ただ、国家が特定の宗教と一体になってはいけなく、また信仰を押し付けることも許されない。

つまり、プロテスタントの政治運動とは下からの運動であり、国家権力と結びついて政治力を駆使することは禁じられているということになる。対して、カトリックの政治とは上からの動きであると言うことができるだろう。

## JR 中央線、自殺多発の怪 1

NPO 法人 純正律音楽研究会 初代代表  
玉木宏樹遺作

数年前、東京の通勤幹線では、沿線住民のグレードでも、電車の高性能化でもトップクラスの中央線（東京～立川～八王子～高尾）で、自殺者が多発した。これは一時社会問題化し、テレビのワイドショーでもとりあげられ、何人かの識者の怪しげな解説でも一向に原因は解明されず、その内、話はオカルト方向にそれてゆき、現在では、あとおいの報道も見られなくなった。

西麻布に事務所のある私は中央線には縁遠いので、そのニュースを聞いたときも深く感心はもたず、飲み屋ネタくらいにしただけで感じていなかった。その後仕事の関係で、中央線を多用するようになった時に、あることに気づき、愕然と

した。

私が中央線を多用するようになったのは、国立にスタジオをもっている作曲家の田頭氏のうちを訪ねることが多くなったため、新宿から快速に乗りかえると、中野、高円寺、阿佐ヶ谷、荻窪と有名所を経て、吉祥寺から都下へと入って行く。

私の衝撃の第一歩は、国立駅に降り立ち、電車の発車ベルのかわりに流される暴力的な音楽まがいの脅迫サウンドロゴであった。サウンドとしては全く工夫の意図すら見えない、機械音一色で、けたたましく、人を威嚇する平均律の不協和音は激しく、わたしの耳を蹂躪したのだ。そしてその直後、何の前ブレもなくブツッと中絶した。この衝撃的な中絶の仕方はなんなのだ！

衝撃さめやらぬまま迎えの田頭氏の車に乗り込んだ私の第一声は、「なんだあれは、あんな音に平気でいられるのか！」だったが、彼いわく、自分は殆んど車だからいいけれど、たまに電車にのると、ほんとに頭に来る、とのことだった。

他の駅に降りたことはないのによく分からないが、それでも国立駅のあの発車サウンドロゴの音量は暴力的である。その時、急に思い出したのは、私が時々訪ねる、日本ビクターの工場のある、京浜東北線の新子安駅（横浜市）だ。後日、ビクターの人にきいても、やはり、あの音は、カンにさわるとのことだったが、音響機器メーカーである彼らが、JRに抗議した形跡もないし、なんだかしょうがないなど、あきらめているらしい。この、妙なサラリーマン独特の「アキラメ」がすべての世の中を悪くしているんじゃないか！と自由業、無頼派の私は内心憤るのだが、所詮.....

ここであのサウンドロゴの突然の中絶について少し考えてみよう。

人が驚いたり、ショックを受ける原因はさまざまあるだろうが、音楽をやっている私が思うに、一定のリズムの流れ（これはもちろん、メロディやおしゃべりも含む）を故意に中断されることはかなりの衝撃を人に与えるものだ。例はなんでもよい、平穏にすごしている日常生活のなかで、突然襲う大音響とか、いままで普通に話をしてきた人が、突然暴れ出すとか、泣き出すとか、いわゆる日常リズムを突破してしまう、異常状態である。

こういう例はいくらでも考えられるが、反対に今まで、通常に流れていた時間経過が突然断ち切られる、それも何もなくなってしまうというのは、想像以上に人を緊張させるものだ。

映画やTVドラマの音楽のつけ方でもいちばん容易にショックを与えられるのは、クレッシェンド、カットアウト、つまり、段々強くして唐突にスパッとやめてしまう音楽のつけ方である。

昔の車掌の呼び子の笛は、その人の肺活量によって、音の消える瞬間は充分予測できたし、電子ベルに変わってからも、あの一定量の音の持続では、鳴り終っても別段ショックはなかった。しかしである。いま現在の中央線のけたたましい音楽もどきと、非人道的なカットアウトはあきらかに、通勤、通学者を威嚇、ジュウリンしている。私の良く知っている中央線の通勤者の話でも、あの音楽には非常にケツをあおられ、せきたてられ、しかも、ブツツときれてしまうと、絶望的に扉に突進するという。そして車内で放送される「かけこみ乗車

は危険です」のアナウンスには、じゃあどうすればいいんだ！ と腹立たしい思いがするという。

ではいったい、あの悪意のあるカットアウトは誰がどのような意図で操作しているんだろう？

ちょっと調べて見てすぐに分かった事実に私はのけぞってしまった。あの暴力的発車音楽まがいは、車掌の位置、つまり最後尾の柱にブザーがあり、たんに車掌はそれを押すことによって、音楽まがいが鳴りだし、もう一度押すことによって音楽が切れるという仕組みになっているだけであって、誰かが意識的にやっているわけではないというのだ。

もちろん、車掌は運行ダイヤを乱さないことがいちばん重要だから、どこで音楽を切ればよいかなどは、一切考えるはずがないのは当然だ。誰がいつなぜあんな無神経で暴力的なシステムを考え出したものだろう。

いや、良く考えてみると、これは別に考え出したわけではなく、ベルのかわりに、音楽モドキを採用したのが無神経すぎるのだ。もし音楽を使うのであれば、カットアウトにならないように、二回目のベル押しのおとも、少し弱くなりながらも音が残っていればいい。いわゆる F.O (フェードアウト) だが、システム上に F.O を組み込むくらいは簡単なことで、金のかかることでもなんでもない。

この本を読んで賛同された方はみんな JR に電話してほしいものだ。

#### 中央線、山手線ロケハンの結果

この章を書き始める前の八月の始めのころの日曜日、私は JR のホームの発車音を耳でロケハンしてみた。八月半ばの日曜となれば、JR 各駅もかなりのんびりしており、いわゆるせっぱつまったギリギリの環境ではないため、迫力はなかったが、静かな分、各ホームに鳴り響く発車音はけっこう音符として実感できた。以下はその体験談だが、各ホームの音を楽譜化できないのがもどかしい。

私の手元には、テープレコーダーなしでその場で五線譜に書きとった楽譜があるのだが、批判の対象でもあり、また、楽譜掲載には JASRAC との軋轢もあるので、A 型、B 型、C 型等で表現したい。

以下はザウルスに手書き五線譜で書きとったものの報告である。

まずは信濃町。私の事務所は西麻布にあるので、バスで信濃町まで出て、中央線を秋葉原まで乗り、山手線に乗りかえて、池袋経由で秋葉原まで一周。そして中央線に乗りかえて、立川あたりまで行こうという計画である。バスで信濃町まで行き、黄色い電車に乗り、秋葉原まで行く。

さすがに日曜日の午後はのんびりとしており、なぜこんなすいている時にまで発車脅迫音をならさなければいけないのだろうと思いつつ、ザウルスに書きとめたつもりが、肝心の信濃町の音はメモリーされていなかった。だから、発車音取材報告は次の駅、市ヶ谷からになる。

#### ・市ヶ谷

この駅の音は、比較的小となしく、結構使っている駅も多いので A 型とする、

ドレミで書くと全部四分音符で ソソラソドソミソ ソソラソドソミソ ソソラソシソレソ ソソラソシソレソ～ である。

・四ツ谷

ここでは、レソミソドソソソ レソミソドー これも耳にはやさしく問題はなさそうだ。しかし、あまり使っている駅がないので、**X**型にしておく。

・飯田橋、水道橋

これはいわゆる、ドミソのハーモニーの分散型だけのシンボル音だが、音が濁っており（後ほど問題にする平均律のせいだと思われる）こんなものをきかされる理由は見当たらないのでペケである。**Y**型にしておく。

・お茶の水

ここは一切、音楽がなしだった。多分、中央線快速が同じホームで、ほぼ同時発車だったため、車掌がブザーをゆずりあったためだろう。結果的には音楽なんか全くなくても、スムーズに発車できることを実証している。

・秋葉原、総武線、出発

これは、ドミソ系のトニックの分散和音の次に脈絡もなく、半音下のマイナーコードの分散和音に移るといって非常に聴感上悲惨なコード進行が大手を振っている。作曲をする私にとっては非常に腹の立つ存在である。**Z**型。

・秋葉原、山手線、到着

ドソドミソド シー

これは、けっこうのどかでよい。フレーズも、短いから、中絶されてもそれほどショックはない。**B**型としておく。

・秋葉原、山手線、出発

これは市ヶ谷と同じ**A**型なのだが、おとなしいと思っていた印象がやや変化してきこえる。やはり、くり返しのフレーズのくどさが耳につくのだろう。

・秋葉原、京浜東北到着

トニックとドミナントの八分音符、そして、ドミソのアルペジオ、シンプルで気にはならない。**C**型にしておく。

・秋葉原、京浜東北出発

これは悲惨なコード進行の**Z**型。

私は間違えて京浜東北の快速に乗ってしまったため、御徒町は通過してしまった。

・上野、山手線到着

けっこうのどかな**B**型で気にならない。

・上野、山手線出発、京浜東北出発

これは意外や意外、ウルルルルの電子ベルだった。これは音楽まがいにくらべれば、何の問題もない。一定の高さと一定のリズム。これは返って、人の心を落ち着かせるのかもしれない。

・鶯谷

八分音符で ミソドミレソシレ ドファラドシラシソ～  
可もなく不可もないが、やはりコードがかわりすぎ、おちつかなくなるのはまちがいない。D型とする。

・日暮里～田端

すべてD型。ただし、西日暮里はPAシステムのちがいのせいか、非常に耳あたりよく柔らかく聞こえた。

・駒込、巢鴨、大塚、池袋、目白、高田馬場

市ヶ谷と同じA型だが、すべてが鳴り出した間もなく、ブツと中絶される。これが通勤帯だったら、イヤなものであるのはまちがいない。

・新大久保

短三度のトレモロ、内回りは外回りよりも短三度下と、一応、区別はしている。このような扱いは、電子ベルに似たようなもので、気にはならないが、区別したつもりの短三度というのが、かえって音楽にきこえたりするような気がする。

・新宿、総武線

これはかなりのんびりしたカネの音で、しかもフレーズも短く、非常に気持ちよい。これは、たいへん工夫が見えて秀逸である。W型とする。

・新宿、山手線出発

JRがいつからホームの音を音楽まがいに作りかえたのかは知らないが、私があつと驚いて、衝撃を受けたのは、ここ新宿と、渋谷の音である。

ここの二駅の山手線の出発音は、内回り、外回りが、キーがちがうだけで、非常にユニークな、音楽モドキ。サウンドロゴとしては、強烈な新鮮さを持っている。

あとで聞いたのだが、この新宿と渋谷にはちゃんとした作曲家が関与しているとのこと。あのあまりにも耳にこちよく響く斬新なフレーズは、五度調弦のバイオリンのアルペジオのような動きをしているのだが、なかなか耳コピーできなかつたユニークなものである。自分でいうのもおかしいが、自分で耳コピーが難しいというのは、よほどいいフレーズか、どうしようもない現代音楽かという両極端しかない。もちろん、今では両駅のフレーズは空んじてはいるが、強力な楽器用フレーズで、うたってみろといってうたえるものではない。



こういう個性あふれるサウンドロゴは両駅のステータスにもぴったりで、ああ、今、いちばん旬の街に来たのだなあという印象を抱かせるものだ。

.代々木

D型で、どうってことはない。

.原宿

実はこのロゴは、どこの駅でも全く聞いたことのない特長はあるのだが、十六音符の早いフレーズのせいもあり、一度で楽譜化はできなかった。しかし、あまり良い印象は残っていない。

.渋谷

ここは新宿と全く同じでユニークである。私が一番よく利用する駅。そのおかげであのフレーズも覚えられたのだ。

.恵比寿

ここは、後の中央線で頻繁に流れる余りにもおぞましい暴力的なフレーズで、大ペケのE型としておこう。

十六分音符が、いちいち自己主張するごかしさと、三度でハモるかのような工夫モドキが、いかにもわずらわしい。

.目黒

ここがまたひどい。うるさい十六分音符が暴れ回り、しかも変なところで変拍子が入るため、なんでも楽譜化して聴いてしまう習性の自分に対しても非常に腹立たしいフレーズである。

前にも書いた、ビクターの所在地、新子安のホームにも同じものが使われているはずである。F型とする。

.五反田

恵比寿、目黒と似たり寄ったりの十六分音符が跳ね回るうるさいフレーズが、突然半音上に移調するという、これぞ、音の暴力である。

.大崎

ここは、停車時間が長い（ここでどの電車も時間調整する）せいか、D型である。これが非常に心落ち着いて聴けるということは、いかにE.F.G型が小賢しいかということである。

.品川、内回り

ここはA型で、イライラとすれすれ状態。

.品川、外回り

D型の少し違うバージョンで、まあまあ。

.田町、浜松町

A型だが、音が大きく、いらつく。

.新橋

ここは今までのなかで一番ひどい。後の中央線をゆうに凌駕するほどの殺人的十六分音符の六連符フレーズが「ソミレドレミソミレドレミラミレドレミラミレドレミ」と絶叫する様は死の直前のショパンの写真を思いだしてしまうほど悲惨の限り。こんな単純な音の並びを無神経に平均律で、それも調律ミスのような濁った騒音が構内を駆け巡っている。後日、新橋で下車し、下の公園を歩いていてもその暴力性は容赦なく私を狙い撃ちにした。

.有楽町

秋葉原、総武線出発と同じZ型で、悲惨。

.東京

新宿、渋谷と違い、没個性だが、フレーズが短いのが良い。何せ、あれだけ各線が入り乱れている駅だけに、音楽を主張しても仕方がないという意味では当然かもしれない。B型のバージョンちがいと、C型である。

・神田、秋葉原、総武線三鷹行

B型。可もなく不可もなし。

・お茶の水、総武線出発

ここはなんだか、汚らしい6分音符のフレーズが鳴っていたがよく判別はできなかった。

・水道橋、飯田橋、市ヶ谷

すべてA型だが、中絶の仕方がひどい。

・四ツ谷

気持ち悪いZ型。

・信濃町

ここはかすかにしかきこえなかったもので、フレーズは判然としない。

・千駄ヶ谷

新大久保と同じ、トレモロ三度、上下線で音程をかえていることが、気にさわる。

・代々木

B型なので、うるさくはない。隣のホームではこざかしいのが流れていた。

・大久保

トニックの分散型のフレーズがかすかにきこえてきたが、あまりに小さい音量だと返って気になるし、なくてもかなと思える。

・東中野

ここはおちついていて、四分音符で、レミドソ レミドー ありふれているが、チャイムはこの程度のメロディでいいのだ。

・中野

ここでも、時間調整するために、停車時間は長いのに、発車時間になってあの最悪の新橋状態が出現したのには、たいへん驚いた。いよいよ、中央線、地獄の音楽攻めの入り口である。

・高円寺、阿佐ヶ谷

トニックのコードが、うるさくアルペジオをかき鳴らし始めたと思ったとたんにブツッと中絶されてしまった。非常に不快、あんな短時間しか鳴らさないのなら、絶対に音楽は必要ない。

・荻窪

五反田と同じ地獄型。不快さが増してくる。

・西荻窪

またもや高円寺状態。無神経きわまりない。

・吉祥寺

ここはかすかで判然としなかった。

・三鷹、特急「かいじ」通過、武蔵境、小金井、国分寺、西国分寺、立川

いよいよここに、中央線、地獄の音楽の集大成が完成する。なぜ、単に注意喚起音でなければならぬのが、大音響で表にしゃしゃり出て、音符の自己主張をしなければならぬのか？ それも音楽の振りをして。

誰ひとり、あの音の暴力を告発しないのはどうしてなのだろう。あれは、うるさいブザーや呼び子のかわりに **JR** が工夫をこらした「音楽」だから我慢しなければならぬのだと、自分自身にいいきかせているのだろうか？

どうぞ中央線沿線の住民よ、怒ってください。あれは精神にも体にも悪い音楽モドキなのだから。

これで一応、中央線、音のロケハンは終えることにする。いまは、ヒーリングミュージックと称して「体によい音楽」の押しつけが激しい一方、このような「体に悪い音楽」の追放がされていないなら、日本はますます荒涼とした神経症国家になってしまうだろう。オウム事件以来の意味不明な殺人の増加にもその兆候は出ているともいえるが。 (続く)

CD レビュー 純正茶寮

『Les Cathedrales de l'industrie』

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

『Les Cathedrales de l'industrie』

Malicorne

レーベル: Celluloid

ASIN: B00004S6WN



フランスのトラッドの大御所、Malicorne が1986年に出したアルバムである。彼らは休眠の時代を経て、2011年に活動を再開してはいるが、これが最後のスタジオアルバムになっている。

このアルバムは、当時、ワールド・ミュージックブームだったということもあるのだろうか、以前のアルバムに比べてかなりポップな仕上がりとなっている。

とは言うものの、冒頭からバグパイプがイントロを奏でているし、ハーディ・ガーディやクルムホルンなどの古楽器も使われている。更に、Malicorne の真骨頂とも言うべきア・カペラも聴くことができる。

声のハマリが純正律音楽であることは言うまでもないが、バグパイプ、ハーディ・ガーディやクルムホルンなどの古楽器も平均律ではなく、微分音を奏でる楽器であることを指摘しておきたい。

ギター、ベースやシンセなどはもちろん平均律の楽器である。しかも全体としてポップを意識した編曲である。かつて、高校時代、このアルバムを買って聴き狂っていた頃にはあまり分からなかったが、この作品においては、平均律を基本とした演奏の上に見事に純正律のハマリや古楽器の微分音を溶け込ませることに成功している。流石の一言である。

## 即位の礼及び大嘗祭と日本国憲法

純正律音楽研究会 正会員  
弁護士 齋藤昌男

(目次)

- 第1. 踐祚の儀
  - 1. 意義
  - 2. 三種の神器
- 第2. 大嘗祭
  - 1. 新嘗祭
  - 2. 大嘗祭
- 第3. 第126代天皇の即位の礼と大嘗祭
- 第4. 大嘗祭に税金を使うのは違憲か
  - 1. 2018年12月10日に提起された訴訟
  - 2. 大嘗祭が違憲であるとする従来 of 訴訟
- 第5. 地鎮祭は違憲か
- 第6. 政教分離の限界
- 第7. 平成28年8月8日の天皇のおことば
- 第8. 結語

## 記

- 第1. 踐祚の儀
  - 1. 意義

踐祚（せんそ）とは、天子の位を受け継ぐことであり、それは先帝の崩御あるいは譲位によって行われます。「踐」とは位に就くこと、「祚」は天子の位を意味します。

もともと即位と同義でありましたが、桓武（かんむ）天皇（第50代）の代から、踐祚の儀（皇位のしるしの神器を受継ぐ）と即位式（高御座（たかみくら）に昇って皇位についたことを臣下に表明する）とは分離し、踐祚の儀のあとに即位式を行うようになりました。ちなみに、現在の皇室典範に、「天皇が崩じたときは皇嗣が直ちに即位する」と定めているのは、皇位につくことを表現したもので、2つの儀礼の分離を否定したものではありません。
  - 2. 三種の神器

踐祚し皇位を継承するには「三種の神器」を先帝から受け継ぐことが必要とされます。三種の神器は、八咫鏡（やたのかがみ）、八尺瓊勾玉（やさ

かにのまがたま)、天叢雲劍(あめのむらくものつるぎ) <草薙劍>から構成されます。この内、八咫鏡は祀られている賢所を含む宮中三殿を相続することによって受継ぎ、八尺瓊勾玉・天叢雲劍を受継ぐ儀式が劍璽等承継の儀となります。

この三種の神器の真偽については、色々と議論のあるところであります。国学院大学日本文化研究所の神道事典(縮刷版)の385ページ、3段及び4段によれば、「鏡劍は第十代崇神(すじん)天皇のとき、神威を畏れて模造され、旧物は宮中より出て、やがて伊勢神宮に祀られ、さらに十二代景行(けいこう)天皇のとき、劍は尾張(おわり)の熱田に祀られ、今日の熱田神宮に及ぶ。宮中に留めおかれた模造の二種神宝のうち、鏡は幾度か被災したが、賢所(かしこどころ)(内侍所)に祀られており、劍は源平の戦いに際し、安徳(あんとく)天皇とともに海中に没したため、一時昼御座(ひのおまし)の御劍を以って代え、のち伊勢より奉られた宝劍を以って神劍とし、天授のままの璽とともにつねに天皇の側に奉安されている。」としています。

また、三種の神器が如何に大切であるかは、南北朝正閏論においては、神器が無いまま即位した北朝の正当性が否定される根拠の一つとなっていることを見ても分かります。

## 第2. 大嘗祭

### 1. 新嘗祭(にいなめさい)

年ごとの11月、宮中および全国神社で行われる収穫祭で、豊穰を祈請する2月の祈年祭と対置されています。

新嘗祭は11月下の卯の日、三卯あれば中卯の日におこなわれました。明治にいたって、新暦に改めるに際して、明治6年11月23日が下卯日であったため、この日が永制の祭日となりました(明治6年10月4日布告)。宮中において陛下御親らおこなわれるとともに、全国神社でもそれにならって祭礼が執り行われます。

### 2. 大嘗祭

大嘗祭は、天皇御即位初の新嘗祭であります。天皇が即位ののち初めて新穀を天照大神をはじめ天神地祇(てんじんちぎ)に奉り、自らも食する祭りのことで、天皇一世一度の最大の祭であり、「おおにえのみつり」「おおむべのみつり」とも呼ばれます。天皇の即位がその年7月以前の場合はその年に、8月以後の場合は翌年に行われることになっています。これは稲の生育の関係から来ています。

天皇即位ののち、卜定(ぼくぢょう)された悠紀(ゆき)・主基(すき)の国郡(こくぐん)の斎田(地元民の耕作田)でとれた新穀を都に運び、11月の祭日に、仮設された大嘗宮で天皇みずから斎戒の上、神饌として献じ、自身も食します。

古くは広くこの国郡を卜定しましたが、中世以降、近江（おうみ）国が悠紀、丹波（たんば）・備中（びちゅう）国が交互に主基とされ、郡をその国内で卜定してきました。

なお卜定とは、吉凶をうらない定めることを言います。

### 第3. 第126代天皇の即位の礼と大嘗祭

第126代天皇の即位の礼・大嘗祭の予定は次の通りであります。

今上天皇は、2019年4月30日に退位します。皇太子徳仁親王は、翌日の5月1日に即位します。「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」により、政府は以下の5つの儀式を第126代天皇の国事行為たる即位の礼として指定しました。

#### 1. 剣璽等承継の儀（三種の神器を渡す）

2019年5月1日〔宮殿 正殿〕

#### 2. 即位後朝見の儀

同日〔宮殿 正殿〕

#### 3. 即位礼正殿の儀

2019年10月22日〔宮殿〕

#### 4. 祝賀御列の儀

同日〔宮殿～赤坂御所〕

#### 5. 饗宴の儀

同日、25日、29日、31日〔宮殿豊明殿・長和殿〕

さらに閣議で、新天皇の大嘗祭が皇室行事として行われることを口頭で了解しました。

大嘗祭の中心儀式・大嘗宮の儀

2019年11月14・15日に行われます。

### 第4. 大嘗祭に税金を使うのは違憲か

1. 大嘗祭に税金を使うのは、違憲であるとして、新たな訴訟が、2018（平成29）年12月10日に既に提起されました。市民団体「即位・大嘗祭違憲訴訟の会」のメンバーなど241人が国を相手取り、公金支出の差し止めと1人あたり1万円の損害賠償を求めているものです。彼等の主張によれば、退位の礼や即位の礼、大嘗祭は宗教的色彩が濃く、大嘗祭は新天皇に神格を与えるという極めて明確な宗教的儀式で、他の宗教者や無宗教者らが受ける圧迫感は大きいと指摘しています。また政府が特定の宗教行為に公金を支出する政教分離違反があれば、原告らの思想・良心の自由、信教の自由に対する間接的な圧迫となり、侵害が起るとしています。

今後、この種の訴訟が増えることが予想されます。私の考えは最後に改めて述べますが、大袈裟な事をしなくても、全ての儀式は何らかの宗教色を帯びるものとならざるを得ないと思料します。それをいちいち政教分離と言って目くじらを立てるのは、困ったものだと思料致します。

2. 大嘗祭が違憲であるとする従来の訴訟（大阪高等裁判所平成4（行コ）48）

判決文のなかから、事実関係として、どの様なことが行われ、どの位お金がかかったのか、以下引用しておきます。

（1）国事行為たる即位の礼として

「即位の礼正殿の儀」

「祝賀御礼の儀」

「饗宴の儀」平成2年11月12日

（2）公的な皇室行為として

「大嘗祭」 11月22日、23日

（3）これらに要した国費は、即位の礼関係で金33億8500万円、大嘗祭関係で宮廷費から金25億6800万円、その他を合わせ、警備関係の費用を除いても総額70億円にのぼったと、されています。

第5. 地鎮祭は違憲か

1. 平成31年3月5日に、特定非営利活動法人神道国際学会で「譲位儀礼と大嘗祭」と題するセミナーがありました。パネルディスカッションの時間となりモデレーターが憲法第20条を読み上げ、フロアーより地鎮祭についての意見が出て、地鎮祭についての憲法上の明白な解釈にも触れずに、時間切れで終わったため、地鎮祭全てが憲法上問題があると思って帰った方が多くいた様です。

2. 憲法の国民の権利及び義務は、歴史的に見れば、国民の国家に対する権利及び義務であって、本来、私人間には適用されないものであります。それをだんだんと民法第90条（公序良俗違反）などを使って、私人間の行為にも国民の権利及び義務の規定を適用する様に拡張されて来たものであります。この原則からすると、私人間の建築において地鎮祭を行うことは全く問題ないと言えます。

3. ただ日本においては、中央政府及び地方公共団体の工事が多いのも事実であります。これに対しては違憲論もありますが、その代表的な判例は津地鎮事件です（最大判昭和52・7・13民集31・4・533）。現在では、この判決に従って運用されていると言えます。以下引用します。

「政教分離規定は、国家と宗教との分離を制度的に保障することにより、間接的に信教の自由の保障を確保しようとするものであるが、現実に国家と宗教との完全な分離を実現することは、実務上不可能に近く、それを貫こうとすれば、かえって社会生活の各方面に不合理な事態を生ずることとなる。したがって、本条の政教分離原則は、国家と宗教との関わり合いが相当とされる限度を超えることを許さないとするものであり、本条三項にいう宗教的活動とは、その目的が宗教的意義を持ち、その効果が宗教に対する援助、助長、促進又は圧迫、干渉等になるような行為をいい、この基準に照らせば、市が



体育館の建設に際して行った神式地鎮祭はこれに当たらない。」

## 第6. 政教分離の限界

国家と宗教の厳格な分離と言っても、国家と宗教のかかわり合いを一切排除する趣旨ではありません。この点、アメリカにおいて、かなりの判例の積み重ねがあります。岩波書店発行、芦部信喜、「憲法」第7版、165ページ、終りから2行目から引用すると、次の様であります。

「アメリカの判例では、この種の問題について、目的・効果基準と呼ばれる基準が用いられてきた。この基準は、①問題となった国家行為が、世俗的目的 (secular purpose) をもつものかどうか、②その行為の主要な効果 (primary effect) が、宗教を振興しまたは抑圧するものかどうか、③その行為が、宗教との過度のかかわり合い (excessive entanglement) を促すものかどうか、という三要件を個別に検討することによって、政教分離原則違反の有無を判断し、一つの要件でもクリアできなければ右行為を違憲とするものである。」

## 第7. 平成28年8月8日の天皇のおことば

今回の生前譲位のきっかけを作ったのは、平成28年8月8日の「象徴としてのお務めについての天皇陛下のおことば」であることは、異論のないところであります。以下に、その主要な部分を引用し、特に重要と思われる点に、アンダーラインを付けました。

「即位以来、私は国事行為を行うと共に、日本国憲法下で象徴と位置づけられた天皇の望ましい在り方を、日々模索しつつ過して来ました。伝統の継承者として、これを守り続ける責任に深く思いを致し、更に日々新たになる日本と世界の中であって、日本の皇室が、いかに伝統を現代に生かし、いきいきとして社会に内在し、人々の期待に応えていくかを考えつつ、今日に至っています。(略)

私が天皇の位についてから、ほぼ28年、この間(かん)私は、我が国における多くの喜びの時、また悲しみの時を、人々と共に過ごして来ました。私はこれまで天皇の務めとして、何よりもまず国民の安寧と幸せを祈ることを大切に考えて来ましたが、同時に事にあたっては、時として人々の傍らに立ち、その声に耳を傾け、思いに寄り添うことも大切なことと考えて来ました。天皇が象徴であると共に、国民統合の象徴としての役割を果たすためには、天皇が国民に、天皇という象徴の立場への理解を求めると共に、天皇もまた、自らのありように深く心し、国民に対する理解を深め、常に国民と共にある自覚を自らの内に育てる必要を感じて来ました。こうした意味において、日本の各地、とりわけ遠隔の地や島々への旅も、私は天皇の象徴的行為として、大切なものと感じて来ました。皇太子の時代も含め、これまで私が皇后と共に行(おこな)って来たほぼ全国に及ぶ旅は、国内のどこにおいても、その地域を愛し、その共同体を地道に支える市井(しせい)の人々のあることを私に認識

させ、私がこの認識をもって、天皇として大切な、国民を思い、国民のために祈るという務めを、人々への深い信頼と敬愛をもってなし得たことは、幸せなことでした。」

ここでは、以下の3つの大事な事を述べられております。

第1に天皇の地位の継承については、憲法第2条が「皇位は、世襲のものである」と規定するとしております。世襲制は、本来、民主主義の理念および平等原則に反するものではありませんが、日本国憲法は2000年以上の歴史を有する天皇制を存置するために世襲制を設けたものであります。

第2に「何よりもまず国民の安寧と幸せを祈ること」を挙げており、これは法的な根拠のない宮中祭祀を象徴天皇の準国事行為と位置づけたと見ることも出来ると思われれます。

第3に「時として人々の傍に立ち、その声に耳を傾け、思いに寄り添うこと」とは、慰霊の旅や被災地訪問などを指しているものと思われれます。従来の考え方は、国内巡幸や外国元首との親書等の交換は私的行為だとし、国会開会式・外国の国家儀式への参列や国内の各種大会への出席行為は、憲法第7条第10号の「儀式を行ふ」に含まれるとし、その限度で国事行為の観念を拡張してきました。特に憲法第7条第10号は、「儀式を行ふ」と書かれており、「儀式を行う」とは、通常は儀式を主催し執行する意味であり、それに儀式や各種の式典に参列する行為を含めるのは、文理上かなり難点があるとされてきました。その様な立場から準国事行為説を唱える人もおります。

しかし、今回のおことばで、国事行為の裾野が、広がった気が致します。

## 第8. 結語

1. 即位の礼と大嘗祭の憲法上の問題点を申し上げたいと思います。これは、天皇家の信教の自由と政教分離をどの様に考えるかと言う問題でもあります。従来の政府や宮内庁の考え方は、天皇家の宗教行事はあくまで私的なもので、公費ではなく、内廷費でまかなえば法的に問題ないとするものです。秋篠宮が、大嘗祭は内廷費で行うべきとの発言も、これにそったものです。私は、古い歴史と伝統をもった、たとえ象徴天皇であろうと、天皇という制度がある以上、もっと自由に考えるべきものと思っております。

2. 「退位の礼」、「即位の礼」、「大嘗祭」を行うについては、全く無宗教な儀式というものはありえないと思われれます。日本の歴史、日本の伝統を考えれば、天皇の儀式は神道のスタイルになる事は、余りにも当然であると、私は思料します。

3. 「税金が使われることに反対だ」とか、「納税者全てが巻き込まれ、反対することに憂いを持つ」とか言う方もいらっしゃると思いますが、日本国憲法が、たとえ象徴であると言う言葉を使っている、天皇制を認め、その天皇制と言う歴史は、2000年にも亘っている国は、全世界を見ても日本だけあります。

4. 序に靖国問題について一言付け加えておきます。第2次世界大戦で亡くなった日本人は約240万人以上も居ると言われているそうです。その中の多くの軍関係者が合祀されているのが靖国神社である事は事実です。しかし、A級戦犯合祀の問題は別として、その方々の犠牲において今日の私共がいる事を考えるときに、宗教の形式はどうあれ、日本国民として、この方々に祈るのは、余りにも当然のことと思料します。

以上

平成31年4月23日脱稿

### 昭和、平成、観劇むかし話「となりの椅子」

NPO 法人 純正律音楽研究会 準会員  
元 CM ディレクター・映画監督  
図師三千男

満席だった。開幕前の客席のざわめきは、オーケストラのチューニングのようで心地よい。今日の帝劇はいつもの客層と変わって若い。野田秀樹の「夏の夜の夢」。原作を換骨奪胎、全てを食べることになぞらえた久しぶりの野田ワールドは、どんな展開を見せてくれるのか。僕のとなりの椅子は空いている。

開幕まじか、ほのかな香りがして空席は埋まった・・・  
美輪明宏さんだった。美輪さんはよく笑った。まるで鏡のように舞台に反応した。江戸川乱歩原作、三島由紀夫脚色「黒蜥蜴」あの華麗な演出家、演技者、辛口の批評家は斜めに舞台を凝視するのではなかろうか。僕の類型的な想像は見事にはずれた。休憩が入って劇の後半、となりの椅子は空いていた。

美輪さんは全てを読み取ったのだと思う。原作は万人承知のロマンス劇。勝負は脚色と演出だ。ここまで観ればそれは分かる。厳しい舞台人の速読術を見た思いがした。

となりの椅子は二つ並んで空いていた。日生劇場、劇団四季の「ハムレット」浅利慶太が正攻法でアタックした力作だ。颯爽とした日下武のハムレットは、独特の粘りのある発声でセリフの詩を際立たせていた。ガイドに案内されてとなりの席に着いたのは・・・。

乙羽信子さんと新藤兼人監督夫婦だった。目が合って思わず会釈した。実は乙羽さんにお会いするは初めてではなかった。学生時代、日本テレビで小道具のアルバイトをしていた時、何かのドラマで、郵便を取りに玄関のたたきに降りる乙羽さんの草履をセットする係になった。

「学生さん、和服って裾があんまりさばけないの。もっとこっちへ置いて」。僕は木下藤吉郎にはなれなかった。

新藤兼人監督は美術助手からシナリオに転身、監督になった方だ。シナリオの修行時代「近代戯曲全集」を読破したと述べられておられる。敗戦後まもな

く、貴族階級の没落を描いた原節子、滝沢修、宇野重吉、監督吉村公三郎の映画「安城家の舞踏会」は、出典がチェーホフの「櫻の園」であることがうかがえる。舞台が終わったとき「あの時の草履を」とは切り出さず感謝を込めて黙礼した。

くしゃみを押し殺し、ぐじゅぐじゅと鼻をつまらせ、白いハンカチに顔をうずめたとなりの女性は息苦しそうだった。今はなくなった新宿シアターアップル、ジャンヌ・モローの「ゼルリンヌの物語」。ぐじゅぐじゅが気になって仕方がない、となりに背をむけ斜めに舞台を観る一時間半だった。やっと解放されて劇場を出るとき、近くにいた友人に「君の隣りに・・・岸田今日子さんが来ていたね」。岸田さんならぜひご挨拶したかった!クルマの CM でたってのお願いと、翻訳劇調のナレーションをやって頂いた。相手役は広川太一郎さん。同窓だった。お二人とももう居ない。

CM の撮影でたびたび海外に出かけた。夜はスタッフと一緒に食事をするのだが、初日だけにしてもらって後は劇場へ急ぐ、コメデー・フランセーズにはパリに来る度に出掛けた。市民に混じって当日券売り場に並ぶ。席は天井桟敷、桶の底を覗くように舞台を観る。念願の一階中央席が入手できた日、となりの椅子には・・・

老夫婦が孫と思しき少年を伴っていた、JAL トラベル仏語の最も簡単な挨拶を述べた。頭の天辺から黄色い声を発して老夫人の笑顔が帰ってくる。「心ならずも医者にされ」。ハシゴを持ち出してアクロバチックに展開するモリエール古典劇の新演出に、孫と祖母と一緒に笑い興じている。なんと幸せな国だろう。

アンチ歌舞伎として生まれた新派を否定して新劇は生まれた。モスクワ芸術座がお手本だった。そして、アングラも小劇場運動も新劇を打破するところからスタートした。日本演劇の不幸は、負を含めてその遺産を受け継がなかったことだというけれど。

ホテルに帰るロケバスの窓から「シラノ・ド・ベルジュラック」の看板が見えた。劇場へとびこんだ。今日のチケットは完売と云う。でも長年の感で、何とかうまく行きそうそうな予感があった。果たして、開幕が迫るとロビーに係員が現れ踏み台に上がって何事かしゃべり始めた。人垣が囲む。都合によりこの回をキャンセルする人のチケットの転売を斡旋してくれるのだ。なんとお洒落なシステム。風邪で来れなくなった奥様の代わりに、ご主人と子供二人のフランス人一家と観ることになった。

スペクタクルとして演出された舞台は、生きた白馬が本物の馬車をひいて巧妙に仕込まれたベルトコンベアの上を全力で疾走した! ご主人が会話もおぼつかないぼくの顔を覗き込んで、お話は分かるのかと問う。日本語テキストが頭にはっているとパントタイムを交えて応えた。テキストは三津田健のシノラ・杉村春子のロクサーヌ。

観た作品の数だけ、となりの椅子はある。ブロードウェイの「ドラキュラ」のとき幕が降りた瞬間、歓声の中で前席の男が振り返った。一人で観ていたアフリカ系の観光客だった。この楽しさ、感動を誰かと分かち合いたく咄嗟に相手を探したのだろう。ぼくに満面の笑顔で握手を求めてきた。

劇場で共有する感動。一人では絶対得られない共感の連鎖の波が客席を包む。

古代ギリシャの円形劇場にはそれがあつたはずだ。右の椅子がビロウドの椅子に変わっても、となりの椅子の人と、そのとなりの椅子の人と繋がっていたい。

### 今後のスケジュール

#### 【癒しの音楽コンサート】

2019年9月21日土曜日 14時開演

会場：山崎製パン 飯島藤十郎社主記念 LLC ホール

出演：水野佐知香(Vn)、三宅美子(Hp)、吉原佐知子(箏)

ゲスト Christopher Yohmei Blasdel(尺八)



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp

<http://just-int.com/>

2019年5月27日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会

編集：相坂政夫